



第 65 号

目 次

論 文

- 北島国永『年代和歌抄』を読む……………稲本 紀昭(1)
- 元首政期ローマ帝国とギリシア知識人……………桑山 由文(19)
- 中世中期サン・トメールの市場をめぐる自由と統制……………山田 雅彦(33)
—— 13世紀ワイン・ステーブル市場再論 ——
- 根源の時……………竹内 亨(1)

史料紹介

- 山城国久世郡寺田村文書目録……………母利 美和・吉川 美佐(59)

- 彙 報……………(113)

2 0 0 8 ・ 2

京 都 女 子 大 学 史 学 会

表紙の題字は故那波利貞先生の筆。『史窓』
が活版印刷になり第5・6合併号を発行した
とき（昭和29年）御書きいただいたものです。

二〇〇七年度 学会行事

新入生歓迎会

四月五日(木) 新入生オリエンテーション
本年度も、例年通り新入生オリエンテーションと新入生歓迎会が同じ日にとり行われました。新入生は、それぞれ期待を胸に抱き、京都女子大学の門をくぐったことでしょう。

史学科、と言えば個性的な先生方の自己紹介。今年も絶えず笑いがあふれ、また新入生は先生方の歴史学に対する熱い想いに触れ、より一層勉学に対し発奮したことと思います。

自己紹介のあとは、学会委員が新入生から質問を受けました。十分な時間はとれませんでした。資格取得や単位取得、または学生生活やサークル活動についてなどの疑問や質問が出ました。私たち学会委員は、当時の自分を思い出し、先輩として彼女たちの学生生活が少しでも充実したものとなるよう、及ばずながら先輩の代表としてアドバイスをしました。

彼女たちにとって、この行事は史学科の学生としての第一歩です。また、学会委員にとっては二〇〇七年初めての大きな行事ということで、お互いに貴重な時間をもつことが出来ました。

新入生歓迎バスツアー

滋賀、石山寺へ

新入生歓迎会のあと、バスに乗って西本願寺へ向かいました。バスで西本願寺へと向かうことが出来るのは、史学科だけの特権。参拝が終わるとバスの中で用意しておいたお弁当をとってもらい、目的地へとバスが発しました。隣同士に座って緊張したようにしゃべっているのも最初だけ。恒例の自己紹介が始まると、バスの中は史学科独特の空気に包まれ、好きな歴史人物は？ 行きたい専攻は？ ○△で有

名な〇〇から来ました××です。など、地元自慢にも歴史があふれていて、自己紹介が紹わるころには、すっかり打ち解けた雰囲気でした。

石山寺は奈良時代から観音の靈地とされ、また紫式部ゆかりの花の寺としても有名です。この日は、絶好の参拜日和で、しだれ桜が咲き乱れ、まるで彼女たちの入学を祝福するかのようでした。

学会委員は、厳かな石山寺で新入生ともに参拝することにより、自らもまた初心にかえり、心機一転これから先の行事を盛り上げていこうと決意を新たにしました。

今回のバスツアーが成功したのも、先生方や一回生の皆さんのご協力があったことであり、我々学会委員もそのことを常に忘れてはいけなと思います。本当にありがとうございます。

春季・夏季学会旅行

《春季》勝浦温泉・熊野古道へ

春季の学会旅行は、世界遺産に認定された熊野古道への旅が実現しました。一日目は、松本峠から花の窟へと赴くコースを歩きました。松本峠では鉄砲で撃たれたと伝わる地蔵をはじめ、多数の石像物があり、途中の梅林からは七里御浜が大変よく見えました。

翌日は、那智の滝から熊野本宮大社を巡り、自然の中で日本の精神文化を感じる事ができました。

今回の旅行では、熊野の大自然の中で熊野の靈気に触れ、心身を浄化し、自己を見つめ直すいい機会になりました。

《夏季》鳥羽シーサイド温泉、伊賀上野へ

夏季の学会旅行は、学会委員からの強い要望がありました。一泊旅行のニンニンの旅、伊賀上野へと旅立ちました。初日はさっそく伊賀流忍者博物館へ。「くの一」が案内してくれ、ドンデン返し、仕掛け戸、もの隠しなど実演を交えて説明してくれました。参加者は忍者屋敷の仕掛けに驚きながら楽しみました。さて、その後は自由行動。忍者ショーを楽しんだ人もいれば、伊野上野城へ向かった人、中には忍者に

扮装した方も……。

忍者の里でニンニンした後は、齋宮歴史博物館へ。学会委員さんが説明をして案内して頂けるのも、この旅行の魅力の一つ。時間が押して、あまり充分に見学は出来ませんでした。博物館の許す限り学会委員さんが説明してくれました。博物館は模型がふんだんに使われており、話だけではなく視覚でも楽しめるようになっていました。

一日目の行程が終了し、バスは鳥羽シーサイドホテルへ。鳥羽湾をながめながら楽しむ露天風呂で一日の疲れを癒すことが出来ました。恒例行事としてはカラオケがありますが、今回は夏、ということで花火を楽しみました。

二日目は、二見浦へ行き夫婦岩を眺めたあと、内宮、おかげ横丁へと向かいました。赤福氷、伊勢うどんを食べ、かつての伊勢参宮でのにぎわいを思い浮かべながら、「おかげ横丁」ならではの雰囲気を楽しみ、この旅がとても有意義なものとなりました。この旅行は企画・パンフレット作りを頑張ってくれた学会委員と、参加していただきました学生の皆様、無理をいってご多忙のなか参加していただきました山田先生なくては実現しませんでした。本当にありがとうございます。

春季公開講座

五月二十四日(木) J四二〇教室にて

七つ前は神のうちへは本当か

本学教授 柴田 純

明末の「異人」「真人」

名古屋大学大学院教授 井上 進

卒業論文中間発表

日本史専攻 十月十七日(水) 十九日(金)
東洋史専攻 十月十日(水) 十一日(木)
西洋史専攻 十月十六日(火) 十八日(木)

秋季公開講座

十一月十五日(木) J四二〇教室にて

文政二年薩摩船朝鮮漂流記

名古屋大学大学院教授 池内 敏

ローマ帝国とギリシア

本学准教授 桑山 由文

一回生専攻分け説明会

十一月三十日(金) J四二〇教室にて

この日は一回生にとっては今後の史学研究に関わる大事な日となりました。

先生方はそれぞれ日本史、東洋史、西洋史の各コースについて熱く語り、入学からこの日まで、それぞれ概論を学び基礎を積み上げてきた彼女らは、その熱意により一層希望コースへの想いを強くしたことでしよう。しかしながら、概論を学ぶうちに興味と方向性が変わったり、もしくはより広い範囲での興味が生まれた人も毎年のことながら大勢いたようです。

なかには、自分が専門に学びたいと思っている分野がどこに属するのか見きわめが難しい、という人もいたのではないのでしょうか。一回生の皆さんには、自身が残りの三年間で何を学び、何を研究していきたいかをもう一度よく考え、それぞれの専攻で学び、励んでいってほしいものです。

卒業生予餞会

十二月二十日(木)

四回生の卒業論文の提出締切のこの日、恒例の予餞会が行われました。

本年度は「カフェルネッサンス」にお世話になり、先生方をはじめ多数の四回生が参加され、とても賑やかなひと時となりました。

卒業論文中間発表で先輩たちの意気込みを間近で拝見した時から提出までの、様々な出来事を吹き飛ばす笑顔を見て、四年間の充実した学生生活を窺うことが出来ました。私たちもその様な先輩方を目標に、これからの学生生活をもっと実りあるものにし

たいと思います。本当にお疲れ様でした。先輩方のご活躍を心より祈り申し上げます。

早春の学会旅行

三月二十七日(木)～二十八日(金)

今回の春の学会旅行では、加賀・兼六園と永平寺へと向かいます。道中では、加賀ゆのくにの森での伝統工芸体験も企画しております。旅行では、普段は仲良くなるチャンスの少ない他専攻の方としゃべることが出来、また先生方の意外な一面を見ることも出来ます。行く場所も歴史的に有名な土地を中心に、個人の旅行ではなかなか行く機会のないような貴重な場所を見学することも出来ますので、まだ一度も参加した事がない方も、もう一度参加したいと思っている方も、この史学科ならではの学会旅行に参加してみたいかがでしょうか。
(佐藤友里・平田悠里子)

二〇〇七年度 史学科講義題目

史学科共通

講義

- 史学研究入門 A 常松教授
- 史学研究入門 B 谷口准教授
- 日本史概論 A 瀧浪教授
- 日本史概論 B 坂口教授
- 東洋史概論 A 松井教授
- 東洋史概論 B 檀上教授
- 西洋史概論 A 桑山准教授
- 西洋史概論 B 常松教授
- 考古学 梶川講師
- 民俗学 根井講師
- 日本美術史 山本講師
- 西洋美術史 竹浪講師
- 西洋美術史 愛宕准教授
- 歴史地理学 南出講師
- 人文地理学 中村講師

自然地理学 地認学 相馬講師 金坂講師

講読

- 史学外書講読 I 谷口准教授
- 史学外書講読 II 谷口准教授
- 史学外書講読 III 坂口教授
- 漢文 保科・井上・馬場講師
- ラテン語 桑山准教授・平山講師

演習

- 史学基礎演習 A 常松・檀上・柴田・瀧浪教授
- 史学基礎演習 B 谷口・母利准教授
- 松井・綾村・小谷・山田・坂口教授・桑山准教授

日本史専攻

特殊

- 近代日本の植民地移住体験を考える 坂口教授
- 安井三吉『帝国日本と華僑』日本・台湾・朝鮮』を読む 坂口教授
- 書跡資料の概論 綾村教授
- 書跡資料の伝来と内容 綾村教授
- 譜代大名井伊直弼の思想形成と政治行動 母利准教授
- 王権と藤原氏(その1・2) 瀧浪教授
- 近世武士の日常生活 柴田教授
- 近世武士の精神生活 柴田教授
- 日本文化史の歴史 山露講師

講読

- 日本史講読 I 柴田教授・母利准教授・高井講師
- 日本史講読 II 瀧浪・綾村教授・吉住講師
- 日本古文書 綾村教授・母利准教授・中山講師

演習

- 日本史演習 I 瀧浪・綾村・柴田・坂口教授・母利准教授
- 日本史演習 II 瀧浪・稲本・柴田・坂口教授・母利准教授

東洋史専攻

特殊

ガンダーラ美術とクシャン王朝
朝鮮古代史を考える
古代東北アジア史を考える
イスラーム時代西アジア政治史
イスラーム時代西アジアの社会と文化

元・明時代の海洋政策と東アジア世界
明・清時代の海洋政策と東アジア世界
中国出土文字史料の検討
周代史の研究―文献史料と金文史料
東洋史の諸問題

東洋史講読Ⅰ
東洋史講読Ⅱ
東洋史講読Ⅲ

東洋史演習Ⅰ
東洋史演習Ⅱ
松井・小谷・檀上教授・谷口准教授
松井・小谷・檀上教授・谷口准教授

西洋史専攻

特殊

19世紀アメリカの社会と経済―大衆消費主義の勝利―20世紀アメリカ社会
元首政期ローマ帝国におけるギリシア知識人
「四皇帝の年」とローマ元首政
ヨーロッパ世界の形成―中世ヨーロッパ史の基礎を知る

西欧中世都市をどう語るか―自治と市民生活の諸相
イギリス近現代社会と女性
イギリスにおける女性参政権運動の展開

ポロニアと白鷲―ポーランドにおける国家と民族の表象の歴史から
帝政ロシア領コーカサスの近代史
アルメニア人のユーラシア近代史

西洋史講読Ⅰ
西洋史講読Ⅱ
西洋史講読Ⅲ

西洋史演習Ⅰ
西洋史演習Ⅱ
〔注〕Aは前期、Bは後期、特記していないものは前後期共通。ただし特殊については、同一担当者が前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載し、科目名とA・Bの記号は省略した。

二〇〇六年度 卒業論文題目

日本史専攻
相原 美紀 国号変更にみる日本の国家意識
赤澤 絵美 奥州藤原氏の政治的権力について
秋山 奈緒 弓削道鑑―前半生を中心に―
浅野 遥香 京都における中世葬送の変遷
足立奈津美 江戸時代の化粧に対する意識の変化
阿部 香織 奥羽列藩同盟における盛岡藩の動向―藩論決定過程の考察―

天野 美季 幕臣から見た明治維新―杉浦讓の視点から―
荒木 歩 吉田神道の慶長期における位置づけ
荒木 千尋 明治刑法からみる現行刑法制定の意義
石田 眞樹 日本における男色―江戸のかげま茶屋をはじめとして―
今村 佳恵 少女期の紫式部―家系・教育・交友―
岩崎 文 賀茂斎院の終焉
撫尾奈緒子 秀頼と家康―慶長期における秀頼の存在意義―

江口真起子 皇太弟 早良親王

岡 真由子

何が少年を非行に走らせたのか―戦前の不良少年対策から―
平安時代における産養
鎌倉幕府における女房の役割について―源氏将軍期を中心に―

片平 裕美 武鑑における対馬宗家の家格改訂
岸田 美紗 悪書追改運動―手塚治虫のマンガ観―
北窪亜衣子 貞観五年御霊会と南部仏教との関わり
木村 篤子 妾女考―妾女制の本質的意義の検討―
小松 友紀 小笠原島の日本領土となった経緯―幕末文久度の小笠原回叙―
合田 千紘 孟蘭盆会について―変遷と定着化―
斎藤 瞳 富山売菜薩摩組と薩摩藩について―文化―嘉永年間におけるの差留とその解除―

酒井 千穂 奥州藤原氏初代藤原清衡の政治性
坂本いずみ 肩から読み解く古代の美意識
佐原 希 なぜ原爆が投下されたのか―広島・長崎への原爆投下の目的と正当性―
重河 洋美 阿蘭陀通詞本良永の翻訳業
嶋井 久美 不比等の娘光明子
杉本 未希 近江守護佐々木氏の成立
杉山亜利紗 地藏菩薩信仰について―平安期の利益と救済観を中心に―

鈴木 千明 空海と綜藝種智院
鈴木麻倫子 ミス・ウメ・ツダの挑戦―女子英学塾創設まで―
菅谷 梓 三宅米吉の教育観―雑誌『文』を中心に―
高橋絵里子 『コボたち』の創刊者から見る『赤い鳥』

田代有里恵 江戸時代における武士の切腹
田積 藍子 津田左右吉―享楽主義を中心に―
立石麻里子 京の阿蘭陀館―海老屋村上氏の経済的基盤と役割―
田中 舞 ブルー・ジーンズの歩み―労働着からファッション着へ―
田中めぐみ 「平和」婦人運動家ガントレット恒子

田中めぐみ 「平和」婦人運動家ガントレット恒子

田中佑未恵

『婦人新報』にみる一九二〇年代—
『浮世の有様』にみる近世社会におけ
る情報
戦時下の『少女の友』—主筆内山基の
求めた理想—
貴族社会と受領—苛政と善政を中心
に—

谷川 真理

坂本龍馬の倒幕論
江戸武士にとつての刀剣
「毛利元就自筆書状」からみる毛利元
就—三子教訓状を中心—
琉球処分における国民統合—明治期を
通して—

網島沙希子

蘇我氏と葛城氏

手嶋 彩乃

鳥羽伏見戦争敗北後の会津藩—新政府
への抗戦背景—
天武天皇の皇位継承観
江戸時代の水口曳山祭—ダンについて
の考察—
月観の歴史の変遷
八瀬村と高野村の争論
阿波踊り—俄躍りを中心—
遊び道具に見る歌舞伎文化の浸透
赤穂事件の忠義—堀部安兵衛を中心に
捉えて—

寺内 裕香

島原の歴史、そこに生きる人々
唱歌教育の思想変化—乗杉嘉寿を中心
に—

天井 麻倫

蘇我氏と葛城氏

中谷ひかる

蘇我氏と葛城氏

永井 美名

蘇我氏と葛城氏

西川友佳子

蘇我氏と葛城氏

箱崎 麻希

蘇我氏と葛城氏

橋本あすか

蘇我氏と葛城氏

服部 多恵

蘇我氏と葛城氏

濱口 博子

蘇我氏と葛城氏

速水 麻有

蘇我氏と葛城氏

原 名津実

蘇我氏と葛城氏

前田 愛子

蘇我氏と葛城氏

平野紗和子

蘇我氏と葛城氏

深澤 紗織

蘇我氏と葛城氏

淵上 澄子

蘇我氏と葛城氏

粉 純子

蘇我氏と葛城氏

日野早紀子

蘇我氏と葛城氏

三木 里恵

蘇我氏と葛城氏

溝尾 瞳

蘇我氏と葛城氏

美濃江里子

蘇我氏と葛城氏

宮村 香奈

歌石衛門の鼻肩連中の活動と構造
村上 沙織
瀛宮儀礼
向睦地早紀
米沢藩士雲井龍雄の思想について—幕
末武士の行動原理とは—
山内 恵美
平安貴族の婚姻—正妻(制)の成立を
中心に—
山本真規子
豊臣家の婚姻形態
吉田麻里絵
源義経の政治的役割について
吉葉 愛
軍隊内務書の研究—一九三四年、一九
四三年の改正を中心に—
米田 芳
母性保護論の歴史的意義
米丸 桐加
豊臣政権における関白秀次の立場
渡邊 友花
桂小五郎の政治意識—嘉永六年から元
治元年を中心に—

東洋史専攻

稲井 理乃

小川 亜紗

影岡 悠貴

河井 悠貴

北川 智絵

北中 陽子

近藤 薫

重元 祐子

篠原 理江

嶋田 優子

清水 裕美

茶谷 朋子

津堅 尚美

辻村 朋美

津田 雅代

丸川 雅代

中内 彩乃

秦漢時代における財産刑の変遷
中村 聡美
十世紀アンダルスユダヤ人
—文学活動を中心に—
箱崎 文子
漢火徳説考
針尾 聡子
一五—一六世紀の琉球王権と皮弁冠服
堀 真由美
玄宗と楊貴妃が作りあげた美の文化
堀井 美希
中国の中秋節—宋代を中心として—
松本 真季
中国内地に滞留したソグド人
間宮佳奈子
舟山から香港へ—アヘン戦争前後にお
けるイギリスの割譲地要求とその変
遷—
溝口 瑛
後漢から西晋における御史台制度の展
開
光中奈緒子
『史記』本紀の体例
宮林 愛加
景德鎮と官窯を主として
宮本 由貴
始皇帝と不死への試み
元野由美子
安史の乱とウイグル
森石 洋子
墨家—思想の変遷と存在意義—
山田 絵梨
祭祀関係から見た虎肖の意義について
山室 沙樹
元朝における科挙—進士及第者の分
析—
山本 智子
前漢文帝と延臣

西洋史専攻

有家 昌代

池上 友紀

市川 純子

牛尾 晶

内村 友美

海野ますみ

江口 敦子

江島久美子

大谷美保子

小川 美葉

柏木 理絵

丸川 雅代

とインディオ擁護運動

梶 容子 古代ローマの娯楽―政治との関わり―
狩野 瞳 古代エジプトにおける女性の立場
上野原由紀子 中世フィレンツェ支配体制の変化
―貴族から市民へ―

北野 里奈 近代フランス演劇の変容と社会
―コメディ―フランセーズを中心として―

河野麻里子 魔女と女性
古代エジプトにおけるアメン神官―第一八王朝から第二三王朝まで―

近藤あや菜 ウィーンのアール・ヌーボー―世紀末
ウィーンにおける美学的発展―

近藤友希子 中世西欧の国王統治と地方貴族
重松 里佳 古代ギリシアのポリティス―古典期ボ
リスにみる女性の社会的地位―

鈴木理映子 試験の永世中立―スイス連邦の国際連
盟加盟問題―

関 悠 ウィンストン・チャーチル
古代ローマの同職組合

竹村 優梨 ハドリアヌス帝期の政治支配層
田中 敦子 女性の社会進出と衣装

田邊 倫代 党派対立としてのフランス宗教戦争
外村真依子 ナショナル・トラスの誕生
中川 亮子 中世ヨーロッパ人が見た異世界―ドラ
ゴン物語―

中西佐緒利 中世フランスの景観を特徴づける建築
物

野口 智子 不安なドイツ―歴史をとおしてみる、
国・森・ころ―

長谷川夏紀 ロマノフ王朝最後の皇帝ニコライ二世
樋口 愛 中世地中海貿易におけるヴェネツィア
の君臨とその限界

水野絵美子 アメリカにとってのベトナム戦争
海賊
向井友里子 中世パリのパン屋とその規約―同職組
森田 祐加 合・都市当局・王政
森本美智子 分断と統一

山副 有香 帝冠を戴く革命家―ヨーゼフ二世とそ
の統治―

山田 優季 スコットランドと「二六八八〜九〇年
の革命」―都市と農村の比較研究―

吉本 麻美 壁から見たウィーン

二〇〇七年度 大学院文学研究科
史学専攻博士前期(修士) 課程講義題目

特論

古代都市形成論
平安京の研究
書跡資料の概論
書跡資料の整理と伝来の研究
近世大名と京都
近代東アジア地域における人の移動
「清和院町日誌」を読む
近世のバスタード体制

※日本文化の歴史を考える
日本古文書学特論
周王朝の国制研究
元代沿海地域社会の諸問題
明代沿海地域社会の諸問題
仏教美術から見た中国社会(北魏)
仏教美術から見た中国(隋唐)

※中国史上の諸問題
中国近世史料講義Ⅰ―五代北宋史料
料を中心として―
中国近世史料講義Ⅱ―南宋史料を
中心として―

前近代アラブ地域のウラマー
イスラーム文化における口承の尊重
※帝政ロシア領コーカサスの近代史
※アルメニア人のユーラシア近代史
元首政期ローマ帝国の領域形成
後二世紀ローマ帝国と周辺世界
ヨーロッパ中世の権力と経済

※イギリス女性参政権運動(サフラジズ)

ム) 史研究の再考
※欧米近現代女性史研究の再考―「ジェ
ンダー」の視角から
アメリカ現代政治史
アメリカ大衆社会論
※ポロニアと白鷺―ポーランドにおけ
る国家と民族の表象の歴史から
(※は学部共通)

河村講師
河村講師
常松教授
常松教授

小山講師

瀧浪教授
綾村教授
綾村教授
母利准教授
坂口教授
小林講師
柴田教授
山路講師
河内講師
松井教授
檀上教授
檀上教授
小谷教授
小谷教授
富谷講師
木田講師

日本史演習Ⅰ・Ⅱ
日本史演習Ⅲ・Ⅳ
日本史演習Ⅴ・Ⅵ
日本史演習Ⅶ・Ⅷ
日本史演習Ⅸ・Ⅹ
東洋史演習Ⅰ・Ⅱ
東洋史演習Ⅲ・Ⅳ
東洋史演習Ⅴ・Ⅵ
東洋史演習Ⅶ・Ⅷ
東洋史演習Ⅸ・Ⅹ
西洋史演習Ⅰ・Ⅱ
西洋史演習Ⅲ・Ⅳ
西洋史演習Ⅴ・Ⅵ
西洋史演習Ⅶ・Ⅷ
西洋史演習Ⅸ・Ⅹ

瀧浪教授
綾村教授
母利准教授
坂口教授
松井教授
小谷教授
檀上教授
谷口准教授
桑山准教授

瀧浪教授
中山講師
坂口教授
柴田教授
松井教授
小谷教授
檀上教授
谷口准教授
桑山准教授

瀧浪教授
中山講師
坂口教授
柴田教授
松井教授
小谷教授
檀上教授
谷口准教授
桑山准教授

瀧浪教授
中山講師
坂口教授
柴田教授
松井教授
小谷教授
檀上教授
谷口准教授
桑山准教授

瀧浪教授
中山講師
坂口教授
柴田教授
松井教授
小谷教授
檀上教授
谷口准教授
桑山准教授

瀧浪教授
中山講師
坂口教授
柴田教授
松井教授
小谷教授
檀上教授
谷口准教授
桑山准教授

瀧浪教授
中山講師
坂口教授
柴田教授
松井教授
小谷教授
檀上教授
谷口准教授
桑山准教授

瀧浪教授
中山講師
坂口教授
柴田教授
松井教授
小谷教授
檀上教授
谷口准教授
桑山准教授

西洋史特殊研究Ⅱ
西洋史特殊研究Ⅲ

山田教授
常松教授

二〇〇七年度 大学院博士論文題目

佐竹 朋子 近世中後期公家社会の研究—政治主体の新たな形成をめぐって—

馬場理恵子 漢代における儒教的統治イデオロギーの成立と「天」の理

二〇〇七年度 大学院修士論文題目

岡田 知春 八世紀における日本の対外政策—新羅・渤海を通して—

福寿 雅子 平安貴族社会における物忌—天皇の御物忌からの再検討—

大川 沙織 明代嘉靖期における市舶太監の裁革

前田 尚美 明代後宮制度と嘉靖帝の改革

原戸 僚子 戦後アメリカ・ユダヤ人とホワイトネス

二〇〇七年度 大学院行事

研究発表会・その他

四月 二十五日 卒業論文発表会
秋田城と渤海

M1 小松原朋子
明代の文人徐渭の幕僚活動について
M1 辻原 明穂
十二世紀バイエルンにおける写本製作と女性の役割

M1 梅田 萌
中・近世バルト海貿易におけるハンザとオランダ
M1 高野 千佳

四月 二十五日 大学院歓送近会(京都ダイニン
グ市場小路にて)

六月 二十六日 史学研究会春期例会

十一月 七日

七世紀後半の唐をとりまく周辺地域の自立と活性化への動き
研修者 菅沼 愛語
修士論文中間発表会
八世紀の日本の対外政策—新羅・渤海との使者の往来を中心として—

M2 岡田 知春

平安貴族社会における物忌について
M2 福寿 雅子

明代嘉靖期における市舶太監の裁革
M2 大川 沙織

後宮制度と嘉靖帝の改革
M2 前田 尚美

戦後アメリカ・ユダヤ人と問題提起としての白人性
M2 原戸 僚子

領域別行事

東洋史

十月 十三日

合評会・報告会
木岡さやか「明代海禁体制の再編と漳州月港の開港」
『史窓』第六十四号

M1 辻原 明穂
后妃制度にみる嘉靖帝期の儀礼改革
M2 前田 尚美

西洋史

八月 三日

報告会
A・ライリー著『スコットランド宗教改革の起源』(英書)
前半部分の批判的検討

D2 小谷美記子
J・E・シェフリー著『聖ラデグンドとその修道院創建書状』(英語論文)をめぐって
M1 梅田 萌

研究室だより

一三七人の新入生を迎えてスタートした今年度(二〇〇七年度)も、恒例行事の大半を終え、史学科のスタッフ全員が安堵しています。

とはいえ四回生は、最後の関門である卒論試験を控えて気を引き締めていることでしょう。また三回生や二回生・一回生は定期試験やレポート作成に向けて猛勉強(?)、安堵どころではないと思いますが、本誌が届くころにはすべて終了、それぞれ新しい年に向かって希望に胸を膨らませていることでしょうか。ちなみに一回生については昨年末の専攻分けの結果、日本史七〇名、東洋史三〇名、西洋史三二名となりました。なお大学院については、東洋史専攻二名、西洋史専攻二名が新たに入学しました。

さて史学科では本年度、新たに小谷仲男先生をお迎えし、東洋史をご担当いただくことになりました。先生は富山大学を退官された後、放送大学富山学習センター所長を務められ、ガンダーラ仏教美術をはじめ東西交渉史など、いわゆる中国の古代・中世史を幅広く研究されております。また事務員として安井明子さんに替わって平井麻子さんを迎え、ここ数年、ご退職やご就任などスタッフの入れ替わりが続きましたが、ようやく落ち着いた感じがいたします。

来年度から、母利美和先生が教授に昇任されますのも嬉しいニュースです。ますますのご活躍を期待しております。

しかし、悲しいお知らせが一つあります。新田一郎先生が六月にお亡くなりになりました。西洋史をご担当いただき、二年前にご退職されましたが、お元氣でお過ごしでしょうか。ありがとうございました。新田先

T・H・ロイド著『イングリッシュとドイツハンザ(一六五七〜一六一一年)』(英書)第一章「ハンザ特権の勝利」について
M1 高野 千佳

生といえ、JR脱線事故でゼミ生の奥村容子さんが犠牲になられたことに心傷めておられたご様子忘れられませんか。ご冥福をお祈りいたします。

今年度も新入生歓迎のバスツアー(四月五日、石山寺)をはじめ、春・秋の公開講座、春・秋の学会旅行、卒論中間発表、予餞会など、学会委員の方々は本当にお世話になりました。三月には加賀方面への学会旅行も計画してくれているようです。楽しく有意義な旅行となることを祈るとともに、その尽力に心よりお礼を申し上げます。
(史学科主任 瀧浪貞子)

学会委員

二〇〇七年度の学会運営に協力して下さった学会委員は次の方々でした。例年通り史学会諸行事の企画から運営まで、全般に渡って支えていただきました。篤くお礼申し上げます。

- 委員長 東洋史三回生 吉田 智子
- 副委員長 東洋史三回生 佐藤 友里
- 會計 西洋史三回生 田中小百合
- 書記 日本史三回生 山根亜優美
- 広報 東洋史三回生 平田悠里子
- 日本史二回生 石田 智美
- 西洋史二回生 小堀 晴菜
- 東洋史二回生 庄司 育子
- 日本史二回生 古谷 育世
- 西洋史二回生 松本 泰香
- 一回生 安宅 美菜
- 一回生 逢坂 絵里
- 一回生 岡崎亜由美
- 一回生 是永英里子
- 一回生 森川 敦子

京都女子大学史学会会則

(二〇〇三年三月二〇日制定)

(名称)

第一条 本会は、京都女子大学史学会と称する。

(事務局)

第二条 本会の事務局は、京都女子大学文学部史学研究室に置く。

(目的)

第三条 本会は、史学に関する諸問題を研究し、もって学界に寄与することを目的とする。

(会員)

第四条 本会は、京都女子大学文学部史学科の専任教員および本会が特に認めた者をもって組織する。

(事業)

第五条 本会は、第三条の目的を達成するために、次の事業を行なう。

1 機関誌『史窓』の発行。

2 講演会、研究発表会。

3 その他必要な事業。

(代表)

第六条 本会に代表を一名置く。代表は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。

(委員会)

第七条 『史窓』の発行のために、『史窓』編集委員会を置く。委員は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任は妨げない。その構成員は以下のとおりとする。

- 1 編集委員長 一名
- 2 編集委員 若干名

(総会)

第八条 本会の総会は、一年に一回以上開催し、本会の重要事項を議決する。

(事業費)

第九条 本会の事業費は、京都女子大学学会・機関

誌刊行経費、その他をもってこれに当てる。

(会則の改廃)

第十条 この会則の改廃は、総会の議決を経て実施する。

附則 この会則は、二〇〇三年四月一日より施行する。

『史窓』に関する規約

(二〇〇三年三月二〇日制定)

第一条 京都女子大学史学会(以下「本会」という)は、機関誌として『史窓』(以下「本誌」という)を刊行する。

第二条 本誌への投稿資格者は、本会会員および『史窓』編集委員会が特に認めた者とする。

第三条 原稿は、未発表のものに限る。

第四条 本誌に掲載された作品の著作権は、本会に属する。

第五条 執筆要項などの細則は、別に定める。

第六条 この規約の改廃は、編集委員会の議決を経て、総会の承認を得て実施する。

附則 この規約は、二〇〇三年四月一日より施行する。

編集後記

『史窓』第六五号をお届けします。論文四本、史料紹介一本という構成になっております。初めての試みとして、竹内氏の論文を、著者の御要望により、横組みとしました。今後も、内容に合わせて読みやすくする工夫を重ねていきます。

今号も、執筆者の方々と本学関係部局のご協力を得て発行することができました。編集委員一同、心よりお礼申し上げます。(谷口淳一)

執筆者紹介

稲本 紀昭 元本学教授
桑山 由文 本学准教授
山田 雅彦 本学教授
母利 美和 本学准教授
竹内 亨 本学准教授
吉川 芙佐 本学大学院博士課程

(掲載順)

編集委員

谷口 淳一 (委員長)
母利 美和
桑山 由文

史窓 第65号

二〇〇八年二月六日 印刷
二〇〇八年二月二十日 発行

編集 『史窓』編集委員会

発行 京都女子大学史学会

京都市東山区今熊野北日吉町三五
京都女子大学文学部史学研究室内
〒(〇七五)五三一―九一一
代表者 瀧浪 貞子

印刷 株式会社 朋舎

京都市下京区中堂寺鍵田町二
〒(〇七五)三六一―九一二

※掲載内容の著作権は、京都女子大学史学会に帰属
します。

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol. 65

February 2008

Contents

Articles

- INAMOTO Noriaki, A Study of *Nendai-Waka-Shou* (1)
by Kitabatake Kuninaga
- KUWAYAMA Tadafumi, Greek Intellectuals and the Post of
ab epistulis Graecis in the Early Roman Empire (19)
- YAMADA Masahiko, Liberalism and Regulation of
the Medieval Market at Saint-Omer
:A Review of the Wine Staple during the 13th century (33)
- TAKEUTCHI Toru, Die Gründliche Zeit (1)

Document

- MORI Yoshikazu and YOSHIKAWA Husa, The Catalogue of *Yamashiro-no-kuni*
Kuze-gun Terada-mura Monjo 山城国久世郡寺田村文書 (59)

- Miscellanea (113)

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES

Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-8931